

2015 年度聖書の集い（第 8 回）

2016 年 2 月 3 日

桃山基督教会 古本 靖久

<http://momoyama.hannnari.com/>

- 1、聖歌 357 番 「まぶねの中に 産声あげ」
- 2、お祈り
- 3、聖書 「マルコによる福音書 14 章 43～50 節」（新約聖書 93 ページ）

4、今日の内容

神さまってどんな方？「⑧ わたしたちのために傷を負ってくださる方」

今年度の聖書の集いもいよいよあと二回となりました。今回は基督教で最も大切なことの一つ、「イエス様の十字架」についてお話をしたいとおもいます。



① キリスト教と十字架

みなさんはキリスト教というと何を思い浮かべるでしょうか。「アーメン」という言葉。クリスマスのような行事。教会や学校などの施設。いろいろあると思います。ではキリスト教をマークであらわすとしたら、どのような形を使いますか。多くの人は「+」（十字架）を用いるのではないのでしょうか。

この幼稚園の外にも青銅の十字架が三本立っていますし、礼拝堂の中にも正面にあります。また気をつけてみると、いたる所に十字架があることに気が付きます。

また今ではクリスチャンではない人も十字架のネックレスをつけることもあります。十字架のついたものを身に付けることで、自分がクリスチャンであることを周りの人に伝える人もおられます。

それほど、十字架はキリスト教にとって大切な物です。しかしいったい何故なのでしょう。

② 十字架はもともと「処刑」の道具でした

今から 2000 年前、イエス・キリストという方は十字架刑によって処刑されました。どうして殺されなければならなかったのか。さまざまな理由がありますが、そのことに今日は触れないでおきます。

それよりも、十字架はとても恐ろしいものだったのです。ですので、十字架のネックレスをつけているということは、例えるならば、電気ショックの機械や絞首刑の模型を身に付けているようなものなのです。そう思うと気持ち悪くなりませんか。

③ イエス様は何のために十字架につけられたのでしょうか

わたしたちは普段の生活の中で、神さまに喜ばれることばかりをしているのでしょうか。ほとんどの人が首を横に振るのではないのでしょうか。神さまどころか、周りの人を傷つけ、悲しませてしまう、残念ながらそれが人間です。

でもそのようなわたしたちと神さまの間を取り成してくれる方、わたしたちに代わって神さまに「ごめんなさい」と言ってくださるためにイエス様は来られました。そして十字架につけられたのも、本当は悪いことばかりするわたしたちがつけられないといけないのに、イエス様が身代わりになってくださったと信じているのです。だからその象徴である十字架は、とても大事なもののなのです。

④ 他人のために傷を負うということ

聖書は語ります。「互いに愛し合いなさい。互いにゆるし合いなさい」と。イエス様に愛され、ゆるされたわたしたちがしなければならないこと、それは愛し、ゆるすことです。

わたしたちは特に、子どもたちとの関係においてこのことを考え続けていきたいと思えます。わたしたちは親であると共に人間ですから、子どもたちの行動や言動に腹を立てることもあるでしょう。「叱る」ということも、子どもたちの成長の中ではとても大切です。

でも、子どもたちがどうしようもなくなって、お母さんに心から「ごめんなさい」を言ってきたときには、ゆるしてあげて欲しいと思えます。人をゆるすことは、時には自分の心を痛めることもあるかもしれません。でもその時には、今日の十字架のお話を思い出してくれたら本当にうれしいです。きっと子どもたちの心の中にも、ゆるされた喜びと愛されていることの実感が芽生えることでしょう。